

---

◎議案第3号 工事請負契約の締結について

○議長（山本浩平君） 日程第5、議案第3号工事請負契約の締結についてを議題に供します。  
提案の説明を求めます。安達財政課長。

○財政課長（安達義孝君） 議3-1、議案第3号でございます。  
工事請負契約の締結について。

議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例（昭和39年条例第7号）第2条の規定に基づき、次のとおり工事請負契約を締結するものとする。平成27年7月14日提出。白老町長。

- 1 契約の目的 平成27年度施行 白老下水終末処理場水処理計装設備改築工事。
- 2 契約の方法 制限付一般競争入札。これにつきましては応募が1社ございましたので7月9日に見積り合わせを行いまして、
- 3 契約の金額 7,020万円の落札になりました。落札率は98.2%でございます。
- 4 契約の相手方 東芝・白電社 特定建設工事共同企業体。

代表者 札幌市西区琴似4条2丁目1番2号

株式会社 東芝 北海道支社 支店長 井下田一郎

構成員 白老郡白老町高砂町1丁目1番55号

株式会社白電社 代表取締役 谷島和治

- 5 契約保証金 白老町契約に関する規則第35条第2号の規定により免除。

次のページでございますけれども、議案説明でございます。

- 1 工事場所 白老郡白老町高砂4丁目。
- 2 完成期限 平成28年3月11日。
- 3 工事概要 白老下水終末処理場は昭和49年に供用開始され、現在は平成24年度に策定された白老下水終末処理場長寿命化計画に基づき改築の優先度が高い設備から随時更新を進めている。本工事は昭和48年度から平成15年度に建設・機能増設された監視制御装置及び計装設備の更新である。

4 主要設備

- (1) A系No.3、4汚水ポンプ制御盤、1組。
- (2) 次亜塩素酸ソーダ注入ポンプ現場操作盤、1面。
- (3) 汚水揚水量計、1組。
- (4) 外気温計、1組。
- (5) 降雨雪量計、1組。
- (6) 次亜塩素酸ソーダ貯留タンクレベル計、1組。
- (7) 放流流量計、1組。
- (8) 生汚泥流量計、1組。
- (9) 生汚泥濃度計、1組。

- (10) ブロワ放風量計、1組。
- (11) ブロワ吐出圧力計、1組。
- (12) エアレーションタンク流入流量計、1組。
- (13) エアレーションタンク空気量計、1組。
- (14) エアレーションタンクDO計、1組。
- (15) エアレーションタンクMLSS計、1組。
- (16) 返送汚泥流量計、1組。
- (17) 返送汚泥濃度計、1組。
- (18) 余剰汚泥流量計、1組。

以上で説明を終わらせていただきます。

○議長（山本浩平君） ただいま提案の説明が終わりました。

本案に対する質疑を許します。質疑があります方はどうぞ。

5番、松田謙吾議員。

○5番（松田謙吾君） この下水道の終末処理の計量系の更新なのですが、私はこの下水道事業、もう45年余りたつし、この計量系もここに書いているとおり48年から15年ごろに建設されたものだ。今後も常時、更新をしていくのだというようなお話がありました。下水道の使用料、私は今資料がないからいくらになったのか、3億いくらぐらいだったのですが、それから今回料金を8%改正した。この金額も恐らく何千万かの話だと思うのですが、私はこの下水道事業、もともと平成2年ですか、虎杖浜の椿の沢の隣に上水場を3,500万円つくった段階で2万7,000人を想定した下水道事業だと、このように記憶しております。しかしながらこの下水道、浄水場そのものが老朽化になってきている。常時この更新をしていかなければならないということなのですが、人口もどんどん減っておりますね。2万4,500人から今は1万8,000人になった。約7,000人近く、6,500人減っている。こういう中で今の施設がどんどん、ただあのままで改良していくのであれば私はさりげなく大きな改善費がかかっていくと思うのです。そこでやはりあそこの施設そのものの更新時期ももう間近だと思うのです。その中で今のように長寿化しながら常時この悪いものだけをやっていくといたら、私は226億円、町の借金があって、そのうちの3分の1強、80億円以上が下水道の借金なのです。こういうことを含めるとやはり下水道事業をきちんと計画を立てて、人口を想定した中で新たな計画をきちんとしながら長寿化しながらでも全面改良のもう時期がきていると思います。恐らく20億、30億かかると思うのです。そういうことを踏まえると、ただ壊れたから7,000万円出すのだということでこれでいいのかと。ただこういうことだけやっていってやがてもう何年かすると全面改修です。そこに人口が減ってきて、下水道の25年、今92%ぐらいですね。もうこれは虎杖浜の下水道はちょっと遅れているのですが全体的にはもう太平洋団地や岩倉団地はもう更新しないことに下水道を廃止したわけですから、もう大体これで1番上までいってしまったわけです。けどもこの人口減少を含めると、そしてこの下水道の老朽化を含めると、ただ目の前に壊れたから直すのだと。料金改正3,000万円して7,000万円直していくような

やり方というのは私はもう少し考えるべきところがないのかと。長寿化をやっているわけですから。その辺も含めてもうちょっときちんとした考え方でやらないと値上げ、値上げにいきながら、部分的少し改修し、そしてやがてその改修したやつは寿命があるわけですね。それも全部いずれ捨てる時代がくるのです。何年か先にきたら。こういうことでいいのかと私は思うのですが。ですからそういう下水道計画というものをきちんとやって、我慢できる分はもう少し我慢してやるような方法というのはないのかと私は思うのですが、この下水道計画の全体的な計画と下水道の改修計画、それからこのちょこちょこことどんどんもう老朽化しているから出てくると思います。こういうことでいいのかと私は疑問に思うし、このことがまた下水道事業の改正になっていくのです。ですからこの辺の考え方をきちんと持っているのかどうか、お話を聞きたいと思います。

○議長（山本浩平君） 田中上下水道課長。

○上下水道課長（田中春光君） ただいま松田議員のほうからお話があったのですが、おっしゃるとおりでございます。維持管理には多くの経費かかってくるものでございます。今後もその比率についてはどんどん高まってくるだろうと、こんなふうには考えております。そういった中であって今のお話あった使用料の関係でございますが、長期の計画の中で見ますと全体のお話としましては、26年度の決算で申上げて使用料の収入としましては3億3,300万円程度の収入がございました。これに対して27年、今年度でございますが計画上でございますが3億5,400万円程度の見込みとしてございます。以降、3億5,400万円程度です。以降、28年度については3億5,600万円程度と等々と進んでいくわけでございますが、考え方としましては4年間の計画の中でこの使用料の改定のタイミングを見ておりましたので平成31年度までの計画としてはございます。そういった中であって今後の全体計画なり、改修計画はどのようになっていくのかということでございますが、下水道全体の計画としましては今持っている計画で申しますと、全体計画平成35年度までの計画として持っております。その中での計画人口でございますが、平成35年度の時点で下水道の処理人口としては1万5,850人の人口を想定してございます。そういうようなことで進めておまして、今回のこの処理場の関係の長寿命化の計画でございますが、こちらにつきましては平成25年度からスタートしまして、1期5年の計画として平成29年度までの計画として進めているものでございます。その3年度、単年度の中での事業費の額的なお話になりますが、3億から4億円程度の間の中での事業費ベースの中で進めていこうという、こういう計画になっておまして、その中で改築の優先度の高いもの高いものから今現在は改修工事を行っているということで、特にその機械関係、電気計装の関係でございますが、こういったものは対応年数が短いものでございますのでどうしても早目、早目の更新ということで今回はこのような金額の中での更新物を上げさせていただいていると、こういうことでございます。今の処理場の長寿命化計画については29年度までと、こういうふうに申し上げましたが松田議員のおっしゃる話になってくるのですが、29年度以降も2期の後期計画という形の中でまた組み直しはしていかなければならないものとは考えております。以上でございます。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

○5番（松田謙吾君） そのとおりだと思うし、大体そうだと思うのですが、本体全体の老朽化がもう45年になっているのです。そうするとちょこちょこの更新ではなく、あそこ全体の更新も、もうこの35年ころには35年たって今27年だからもうすぐです。そうなったら今の人はまだいいかもしれないけれども、あと何年かした次の世代の方々が本体そのものの改修費がかかって下水料がどれだけ上がるかということもあるわけですから、やはり今からきちんとした、それこそ孫子の代に少しでも軽くしてやるような方策がなかったら将来白老のまちはもちません。もっともたなくなる。ですから今回のこの計量器程度はこの程度我慢できないかと思うのです。どんどんただ計量器全部取りかえないとなくなるものですか。これでは長寿化ではないのではないですか。長寿化だったらこの中でいいものでやらなくてもいいものがあるのではないですか。私はそんな疑問から今思ったのですが。やはりこの下水道はどうしてもこれは取り組まなければならない大きな事業なのです、その辺の計画をきちんとやって何年か後に後悔しないような計画を進めてほしいと、こう思います。答えはいいです。要望だけ一言だけ言っておきます。

○議長（山本浩平君） 田中上下水道課長。

○上下水道課長（田中春光君） お話は十分わかるところでございますが計量器の関係でございますけれども、古いもので申し上げますと、建物全体としては昭和48年以降構築物として構築したわけなのですが、その末端まで至るところの計量器で古いもので申し上げますと、古いものは今回のものの中では昭和55年に設置したのもございます。この計量器そのものは寿命が物によって違うのですが大体10年程度が寿命になっておりまして、1.8倍から3.5倍程度の経過年数を迎えているものもございまして、この計画をつくる段階で全部のチェック、調査をしましてそういったことからいくと対応度といいますか、そういった部分が5段階で申し上げますと悪いほうの2段階のレベルに達しているものが今回ここにあげさせてもらっている計量器でございまして、どうしても更新をしなければ持たないということが更新させていただくものでございます。

○議長（山本浩平君） ほか、ございませんか。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本浩平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本浩平君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終結いたします。

採決いたします。

議案第3号 工事請負契約の締結について原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔挙手全員〕

○議長（山本浩平君） 全員賛成。

よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。